

用語解説

【あ行】

○ ICT

Information and Communication Technology の略で、コンピュータやインターネットなどの情報通信技術を活用して、情報の取得、共有、伝達などを行う技術や仕組みのこと。

○ アクセシビリティ

高齢者や障がいのある人を含め、誰もが情報やサービス、施設などを無理なく利用できる状態のこと。

○ アスペルガー症候群

知的発達の遅れがなく、自閉症の特徴のうち言葉の発達の遅れを伴わない発達障がいの一つのこと。対人関係やコミュニケーションに特性がみられ、相手の気持ちを読み取ることが難しい、会話が一方的になりやすい、暗黙のルールが理解しにくい、特定の物事に強いこだわりや関心を示すなどの特徴がみられる。

○ アセスメント

支援を行う前に、本人の生活状況や困りごと、希望などを把握し、必要な支援内容を検討するために行う評価や聞き取りのこと。

○ 意思決定の支援（意思決定支援）

知的障がいや精神障がい（発達障がいを含む。）等で自己決定に困難を抱える障がい者が、日常生活や社会生活に関して自らの意思が反映された生活を送ることが可能となるように、本人の意思の確認や意思及び選好の推定、最後の手段としての最善の利益の検討のために事業者の職員が行う支援の行為及び仕組みのこと。

○ 医療的ケア

日常生活において必要とする人に対して行われる医療的な支援。たんの吸引や経管栄養（チューブを使って鼻などから直接栄養を取る方法）、人工呼吸器管理など。

○ インクルーシブ

障がいの有無や年齢、性別などに関係なく、すべての人が排除されことなく共に生活し、社会に参加できるようにする考え方や社会のあり方のこと。

○ インフォーマルサービス

行政や事業所などが提供する公的なサービス（フォーマルサービス）に対し、家族や地域住民、ボランティアなどにより提供される支援や助け合いのこと。

○ ADHD

年齢や発達に不釣り合いな程度で、不注意、衝動性、多動性の状態を示し、日常生活や社会生活に支障が生じる発達障がいの一つのこと。集中が続かない、忘れ物やミスが多い、落ち着きがない、思いついたことをすぐに行動してしまうなどの特徴がみられる。

○ 親亡き後

子どもに障がいのある方のいる家庭において、親子の加齢とともに、家庭内での主たる介護者であった親が子どもの介護を続けることが困難となり生活上の様々な危機を迎えるという状況が社会問題となっている。

【か行】

○ 基幹相談支援センター

地域の相談支援の拠点として総合的な相談業務（身体障がい・知的障がい・精神障がい）及び成年後見制度利用支援事業を実施する。また、地域の実情に応じて、総合相談・専門相談、地域移行・地域定着、地域の相談支援体制の強化の取組、権利擁護・虐待防止を行う。

○ QOL

Quality Of Life の略で、生活のしやすさや満足度、安心して自分らしく暮らせているかなど、心身の両面を含めた生活全体の豊かさを表す考え方。

○ 強度行動障害

自傷行為や他者への攻撃、著しいこだわりやパニックなど、日常生活の中で大きな支障をきたすほどの強い行動上の困難がある状態のこと。

○ 均てん化

平等に恩恵や利益を受けること。住んでいる地域に関係なく、その人が必要としている支援やサービスを等しく受けられるように環境が整えられること。

○ グループホーム

主として夜間において、共同生活を行う住居で、入居している障がい者について相談、入浴、排せつ又は食事の介助その他の日常生活上の援助を行う。

○ 限局性学習症

知的発達に遅れがないにもかかわらず、読む・書く・計算するなど特定の学習分野に著しい困難がみられる発達障がいの一つのこと。文字を読むのに時間がかかる、内容理解が難しい、文字を正しく書けない、誤字脱字が多い、計算や数字の理解が難しいなどの特徴がみられる。

○ 高次脳機能障がい

一般に、外傷性脳損傷、脳血管障がい等により脳に損傷を受けその後遺症等として生じた記憶障がい、注意障がい、社会的行動障がいなどの認知障がい等を指すものとされており、具体的には、「会話がうまくかみ合わない」等の症状がある。

○ コンフリクト

意見・価値観・利害などの違いにより、対立や衝突が生じること。

○ 合理的配慮

障がいの有無にかかわらず、平等に人権を享受し行使できるよう、一人ひとりの特徴や場面に応じて発生する障がい・困難さを取り除くための個別の調整や変更のこと。

【さ行】

○ 自閉症

自閉症とは、対人関係の形成の困難さや言語発達の遅れがみられ、特定の物事への強いこだわりを特徴とする発達障がいの一つのこと。視線が合いにくい、呼びかけへの反応が乏しい、言葉の発達が遅れる、同じ行動を繰り返すなどの特徴がみられる。

○ 自閉スペクトラム症

自閉スペクトラム症とは、生まれつきの脳機能の特性により、対人関係やコミュニケーションに困難がみられ、特定の物事への強いこだわりや反復的な行動がみられる発達障がいの一つのこと。自閉症やアスペルガー症候群などを含む概念である。相手の気持ちや意図を読み取ることが難しい、会話がかみ合いにくい、同じ行動や習慣を繰り返す、変化に対応することが難しいなどの特徴がみられる。

○ 児童発達支援センター

障がい児への療育やその家族に対する支援を行うとともに、その有する専門機能を生かし、地域の障がい児やその家族の相談支援、障がい児を預かる施設への援助・助言を行う地域の中核的な支援施設。

○ 社会的障壁

障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）第2条によって定義され、障がいのある方にとって日常生活又は社会生活を営む上で障壁となるような社会における事物、制度、慣行、観念その他一切のもののこと。

○ 就労継続支援

障害者総合支援法第5条に定められた「障害福祉サービス」の一つで、A型とB型との2種類の区分がある。

A型事業：通常の事業所に雇用されることが困難であり、雇用契約に基づく就労が可能である者に対して、雇用契約の締結等による就労の機会の提供及び生産活動の機会の提供、その他の就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練等の支援を行う。

B型事業：通常の事業所に雇用されることが困難であり、雇用契約に基づく就労が困難である者に対して、知識及び能力の向上のために必要な訓練その他の必要な支援を行う。

○ 就労選択支援

障がいのある人が自分に合った働き方が選べるよう、本人の希望や能力を踏まえて支援を行う制度。

○ 重層的支援体制整備事業

高齢、障がい、子育てなど分野ごとの制度の枠を超え、複雑・複合的な課題を抱える人に対し、関係機関が連携しながら包括的かつ継続的に支援を行う仕組み。

○ 障害者差別解消法（障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律）

障がいを理由とする差別を禁止する対策をまとめた法律。

○ 障がい児相談支援

障がい児が障がい児通所支援（児童発達支援・放課後等デイサービスなど）を利用する前に障がい児支援利用計画を作成し、通所支援開始後、一定期間ごとにモニタリングを行う等の支援。

○ 障がい児通所支援

児童発達支援、医療型児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援を指す。

○ 自立支援協議会

地域の関係者が集まり、個別の相談支援の事例を通じて明らかになった地域の課題を共有し、その課題を踏まえて、地域のサービス基盤の整備を着実に進めていく役割を担うもの。

○ 精神保健

心の健康を守り、維持するための取組や制度のこと。

○ 成年後見制度

認知症、知的障がい、精神障がいなどのため判断力が不十分で、自分一人では契約や財産の管理等をすることが難しい方を保護・支援する制度。家庭裁判所が成年後見人等（その方の権利を守る援助者）を選ぶ法定後見制度と自らがあらかじめ成年後見人等を選んでおく任意後見制度がある。社会福祉法人や特定非営利活動法人等の法人が成年後見人等になることもできる。

【た行】

○ ダブルケア

子育てと親などの介護を同時に担う状態のこと。身体的・精神的・社会的な負担が大きくなりやすい社会課題の一つ。

○ 地域移行

障がい者支援施設等に入所している方又は精神科病院に入院している障がい者が、地域での生活に移行すること。住居の確保や外出時の支援、障がい福祉サービスの体験的な利用等を通し、地域生活への円滑な移行をめざす。

○ 地域共生社会

障がいの有無や年齢等にかかわらず、制度・分野ごとの縦割りや「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会のこと。

○ 地域生活支援拠点

障がい者の重度化・高齢化や親亡き後を見据え、居住支援のための機能（相談、緊急時の受け入れ・対応、体験の機会・場、専門的人材の確保・養成、地域の体制づくり）を持った障がい者の生活を地域全体で支えるサービス提供体制のこと。

○ 地域包括ケアシステム

可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを続けることができるよう、医療、介護、予防、住まい、生活支援が一体的に提供される地域の包括的な支援・サービス提供体制。

【な行】

○ 難病

発病の機構が明らかでなく、治療方法が確立していない希少な疾患であって長期の治療を必要とするものをいう。なお、難病の患者に対する医療等に関する法律に定められる基準に基づいて医療費助成制度の対象としている難病を「指定難病」と呼ぶ。指定難病は令和6年4月に新たに3疾病が追加され、計341疾病となる。

○ ノンバーバル

言葉（音声や文字）を用いず、表情・身振り・視線・姿勢などによって意思や感情を伝えること。

【は行】

○ 8050 問題

80歳前後の親と50歳前後の子が同居し、加齢や生活困難等により世帯としての課題が深刻化している状態のこと。

○ 発達障がい

自閉症、アスペルガー症候群、学習障がい、注意欠陥多動性障がいなどのこと。

○ ハラスメント

他者に対して、言動や態度により不快感や苦痛を与えたり、不利益を生じさせる行為のこと。

○ バーバル

言語（音声や文字）によるコミュニケーションのこと。

○ PDCAサイクル

事業を継続的に改善する仕組み。計画（Plan）、実行（Do）、評価・点検（Check）、改善（Act）を表し、一貫した流れのものとして捉え、それらを循環させることで、以降の施策・事業の改善に結び付ける手法のこと。

○ ピクトグラム

絵や図形によって情報や意味を視覚的に伝える記号のこと。文字を用いず直感的に理解できるため、誰にでも分かりやすい情報伝達手段として用いられる。

【や行】

○ ユニバーサルデザイン

年齢や障がいの有無、個人の能力などにかかわらず、誰もが使いやすいようにあらかじめ配慮して製品や環境、サービスなどを設計する考え方のこと。

【ら行】

○ レクリエーション

余暇の時間に行う趣味や運動、遊びなどの活動をいい、心身の健康の維持や回復、交流の促進を目的として行われるもののこと。